

### 3. パネルディスカッション 韓国に学ぶ、日本に学ぶ

～韓国の『へえー』なBB事情、日本の『なんでだろう』なIT事情～

コーディネーター 本間正一郎氏[新潟日報社メディア情報センター長]

パネリスト 趙章恩(チョウ・チャンウン)氏[JIBC会長]

飯塚留美氏[ (財)国際通信経済研究所・上級研究員]

李欣洙(イー・フンスウ)氏[セコム上信越(株)・前任研究員]

張鉉洙(チャン・ヒョンス)氏[新潟県国際交流員]

張さん この4月に新潟に来て感じたことは、インターネットを自由に使える所がないことに不便さを感じた。

韓国ではPCバンという日本で言うところのネットカフェのようなところが日本のコンビニのようにたくさんあって、気軽にインターネットを使える環境にある。

そこでは、小さな子供までオンラインゲームを楽しんでおり、日本では見られない光景である。

新潟に来て早速ブロードバンドの申込みをしたのだが、接続までに2週間もかかってしまった。

韓国であれば、申し込んだ次の日には必ずつながるところである。

こうした間を我慢することは韓国では考えられないことであり、そこが一番大きな差であると感じた。



李欣洙 インターネットのスタートは日本の方が早かった。しかし、ADSLの規格をアメリカやヨーロッパと異にして独自のものを作成したことからコストがかかり、遅くなってしまった。

一方、韓国は早く安くできるアメリカのものを選択した。

韓国人は見たいホームページが5秒以内に立ち上がらないと見限ってしまう。

日本人は我慢強い民族だと思う。

日本では携帯電話の普及によりメールのやり取りができることから、ブロードバンドの必要性を余り感じないものと思われる。

韓国では、ゲームがやりたい、あるいは情報を検索したいというはっきりした目的があったため、ブロードバンドがこれだけ普及した。



飯塚さん 韓国では'99年、2000年頃からインターネット放送等が無料で提供され始めた。

それが2年後くらいに有料化されたが、既にその時点ではインターネットがなければ生活ができないような社会になっていた。

何でもすぐに始めて、営利が出た段階で権利配分を考えるというのが韓国のスタイルである。

政府のリーダーシップと消費者中心の政策転換、サービスの利活用を阻害しないような制度の構築が韓国ではなされた。

日本でも参考になる点として資料をまとめた。

【 プロジェクターにより資料説明】

政府のリーダーシップ

消費者中心の情報通信政策への転換  
(品質の高いサービスを手頃な値段で)

デジタルコンテンツ流通の促進

(無料期間を長くし、利用者の定着を図る)



趙さん 韓国はトップダウン方式でブロードバンドの普及が図られてきた。トップダウンによる悪い面もあったが、これにより早く環境が整ったとも言える。

日本はもっとユーザー側が興味を持ってもっとネットを使ってみるべきだ。

本間Q 張さんは現在県庁にお勤めであるが、県庁でのPCやネット使用に関し、不便はないか。

張さん ノートPCは一人1台あるが、動きが遅かったり、画面が出ないことがある。

本間Q 李さんはサイバーセキュリティがご専門であり、また、お勤めのセコム上信越はプロバイダでもあるが、そういった見地からのご意見をお聞かせ願いたい。

李さん 韓国はインターネットのスピードが速いこと、いろんな情報を取りやすいことから、インターネットの犯罪が増加している。  
プロバイダは単にユーザーに回線を与えるだけでなく、こういうことをやれば犯罪ですよということをユーザーに教える必要があり、同時にそうした犯罪を未然に防ぐ仕組みを作る役目があると思う。  
韓国では国の政策でインターネット犯罪に対し警察が取り締まる仕組みがある。日本の場合には法律でそれがまだ整備されていない。  
したがって、それを行うのは民間企業しかないが、強制力はない。そこが問題である。  
例えば、他人が無断で自分の家に入ってきた場合は、不法侵入である。  
ところが、インターネットでは、単に入ってきただけでは犯罪ではないという意識が強い。  
そこをどうやって変えるかが課題である。  
昨年12月に韓国ではインターネット犯罪が原因で全てのネットが止まるという事件があった。その後国の政策で国内12の全プロバイダを国の機関で管理することとなった。  
日本においては、韓国とは事情も違うことから、ユーザー教育の在り方とプロバイダがどうユーザーを守るべきかが最も重要なポイントであると思う。

本間Q 韓国はとにかくインターネットのスピードが速いとのことであるが、特に放送系はスピードが命であると思うが、韓国のインターネット放送の様子についてもう少し飯塚さんからお聞かせ願いたい。

飯塚さん 地上波放送では不健全なものや最近まで日本に関するものまでも厳しく放送内容に規制が敷かれていたが、インターネットではそうした規制がなく、自由に日本の情報も得ることができたという背景がある。  
放送局も当初はインターネットビジネスが有効かどうか危惧していた。  
しかし、'98年頃から朝鮮日報がインターネットでの記事の配信を始め、人気を集めたことをきっかけに、放送局としても需要に遅れないようこの考えから現在のインターネット放送を始めた。

本間Q 趙さんの基調講演でもあったが、インターネット新聞が社会の変革に大きな役割を果たしていると思うが、その辺をもう少し趙さんからお話し聞きたい。

趙さん 韓国の新聞は基本的にネットに無料で公開している。ただし、翌日掲載予定の記事を新聞らしくPDFでまとめたものについては、50円くらいの有料で公開している。  
ただ、これを見る層は、広報担当者、政府関係者等である。  
'95年に韓国で初めてのサイトらしいサイトとして中央日報がこれを作って公開した。  
これがきっかけとなってネットの有効性を韓国の若者は知ることとなった。  
紙の新聞は一方向的にこれがニュースだという感じがするが、ネットだと私もその記事に対して一言言いたいという欲が出てくる。そこで、ネットの記事をはさんで討論が行われたりして、それが楽しくてネット新聞の人气が上がったということもある。



本間Q 韓国の統計を見ると、小学生の5%くらいが深刻なネット中毒であるとのこと。深刻でないものも含めると4人に一人くらいはネット中毒とも言われている。そういう側面も一方にはあると思うが。

趙さん 警察の事業で、子供に友達と遊ぶ楽しさを教える、ネット中毒防止教室が行われている。親に対しても同時にネットの正しい使い方についての教育がなされている。

本間Q 教育面でのネットの使い方も韓国では進んでいると聞くが。

趙さん 韓国では、インターネットの使い方という教育は '97 ~ '98年で終わっている。最近では、所得の少ない人たちに対して政府が無料でパソコンを配って、ADSLを付けてあげるといふ事業をやっている。低所得の家庭の子供は仲間はずれにされたり、いじめられたりということがあがるが、唯一ネットがその子を自由にしてあげられる環境であり、ネットがその子に夢を与えることができるとも言われている。

本間Q インターネットを使ったe-ラーニングについてどんな感想をお持ちですか。

張さん 学校の教育では偏差値などが重視されるが、それとは違った教育方法として注目されている。子供の学習レベルに応じた教育がなされることから、今後、韓国の教育システム全体が変わっていく可能性もある。

李さん 韓国には日本の放送大学のようなもので、サイバー大学というのがある。時間のない社会人の学習意欲を満たすためのもので、各種資格の取得が可能である。自分が偉くなるためには、知識が必要と考える人が多く、勉強熱心な人が多い。

本間さん パネラーからひととおり話を聞いたが、せっかくの機会なので、会場からも質問を受け付けたい。

#### 【会場からの質問】

会場Q 韓国のASPサービスに係る国の支援等その現状について聞きたい。

趙さん 国では情報化基金という別の予算がある。国が主導で大企業にASPサービスをまず作らせ、一定期間無料とし、安定したら有料化とするが、その期間、政府が支援する仕組みを作った。また、ASPの普及に向けて他国の活用状況などを紹介した広告活動に力を入れた。

会場Q 根本的な話だが、なぜITを推進しなければならないとお考えか。情報を追っていくということは、自分で考えるということをしなくなることにつながるのではないかと危惧している。日本の文化や芸術は、自分で考えるという余裕があるところが他とは違う利点であると思う。情報化が今後どんどん進んでいくと少なからず失うものもあるのではないかとと思うが、いかがか。

趙さん 大変難しい質問で、十分な答えとならないかもしれないが、韓国の場合には国力を上げるために、他の国に対抗できる分野としてはITしかなかった。韓国でも強制的なIT化について問題視する人もいる。徐々にそういった問題についても目を向ける必要があるかもしれない。

飯塚さん 韓国では経済危機が大きな要因となってITが推進された。一定のハードが整備された今後は、文化を含めたソフト面の充実が課題となるものと思われる。

会場Q 日本語と韓国語の変換を行うサイトはどんな状況か。

趙さん それぞれがそれぞれのコンテンツを見せたいということで、翻訳サイトは徐々に充実してきている。やはり冬のソナタの人気きっかけとなっている。

会場Q 日本は単純に韓国へのキャッチアップといった考え方だけではなく、来るべきネット社会に向けた日本の取組方や考え方等、重要と思われるポイントについてアドバイスをいただけないか。

趙さん 日本はまだ、年功序列の社会であり、若い人の意見は黙殺される場合が多いと思う。ネットに限らず、若い人の意見を真剣に受け止める社会になる必要がまず先にあると思う。韓国も以前は若い人の意見は取りあげられなかったが、その意見を認めることによって韓国は生まれ変わって発展し続けているので、日本もネットのユーザー以前

に、会社や社会の中で若い人たちの地位を上げるよう努めることが重要であると思  
う。

本間さん 皆さん長時間に渡ってご協力をいただき、  
ありがとうございました。

今日の話で私が一番強く感じたのは、自己の  
確立というか、自分を主張するということをもっと  
きちんと身につけていく必要があり、その辺から  
何か変わっていくのかなと思った。

ITというのはそれ自体が目的ではなく  
手段でしかない。

その手段をどう使っていくのか、何がしたいのか  
といった自己の確立が多分大切なのだらうと思う。

そういった点では、新潟県人はこれまで  
引っ込み思案で、その辺も今までは影響して  
いたのかとも思うが、最近アルビレックス新潟を  
中心に新潟も弾けてきたと言われているので、  
このアルビレックスの勢いに乗って、  
新潟県のIT、新潟的ITが発展していけば良いと感じた。

